



## 生徒にとって「安心・安全」な学校、 「居心地のよい」学校を目指して 職員全員で思いを語り合いました！

子どもにとって学校は、起きている時間の大半を過ごす場所です。その場所が安心・安全な場所であるか、居心地のよい場所であるかは子どもにとってとても大きな問題です。

学校の先生方は、日々、子ども達に正しいことを伝え、よりよい行動や学びにつなげようと努力しています。しかし、どれほど理屈を尽くして説明しても、それだけでは子どもは動きません。大切なのは、子どもが安心して学び、挑戦しようと思えるための「信頼の土台づくり」です。この土台が弱いままでは、いくら正しい指導をしても子どもの心には届きません。

そこで、新学期を目前に控えた4月6日(月)に職員研修を行いました。研修テーマは、「信頼の土台をつくるために ～我々が心がけること、すべきこと～」です。それぞれの職員が、日頃、子ども達と接するとき大切にしていること、心がけていることを出し合い、思いを語り合いました。以下に出された意見の一部を紹介しますが、信頼関係を築くためのたくさんのヒントが出されました。学校生活の場面や子どもの状況により対応は変わりますが、今回出されたヒントを踏まえ、その都度職員で話し合い、最適解を見つけて子どもを支援していきたいと思えます。

第一中学校が子どもにとって安心・安全な場所、居心地のよい場所となるよう、職員全員で取り組んでまいりますので、保護者や地域の方々のご協力をお願いいたします。

<テーマ> 信頼の土台をつくるために  
～我々が心がけること、すべきこと～

※先生方から出された意見の一部

<日々の生徒理解>

- 表情、変化をキャッチして寄り添う
- その行動の裏にあった感情に寄り添い理解する
- 「否定よりも理解」まずは子どもを受け入れる



<認め、ともに歩む>

- 人のため、みんなのために行ったことを見つけたら「ありがとう」と言葉で伝える
- 結果だけでなく、過程を認め褒める
- 失敗や間違いを責めるのではなく、挑戦したことを褒める

<声かけ+思いに耳を傾ける>

- 生徒の言い分に耳を傾ける
- 子どもの話をきちんと顔を見て聞く
- いつもウエルカムで話しやすい雰囲気を整える
- 気になったことを保護者に「心配なので…」と伝え、一緒に見守る



<教員自身の人格形成>

- 自分自身の表情(笑顔)、言動、接し方、活力ある姿
- 先生自身が口だけでなく行動で示していく
- 絶対に社会人として倫理的に外れるような行動をしない

<一貫した指導、ぶれない基準>

- 誰に対しても一貫した指導
- ダメなものはダメと言える基準を持つ(きちんと叱ってくれる先生)
- その生徒の特性に合った言葉かけ
- 一人ひとりを人格のある一人の大人として扱う
- 職員内で情報交換を行う